

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

地 理

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

地形図、グラフや地図を用いた統計問題、写真などを題材に考察させ、長文で述べさせる問題が多い。基本的な知識を記述させる問題もある一方、図表や用語の解釈が難しい問題も含まれていた。特に問題ⅡやⅢでは長文の論述が多く、時間が不足した受験生もいたと思われる。

〈特記事項・トピックス〉

問題Ⅱの問2の植物工場、問5のマングローブの植林、問題Ⅲの問1、問2の都市人口の問題では、高度な図表の読み取り能力や思考力が試されている。

〈合格への学習対策〉

まず高校の教科書に書かれている基本事項について、過不足なく説明できる学力を養っておく必要がある。次に名古屋大学の過去問をできるだけ多く解き、できれば地理の先生に添削してもらおうとよい。さらに大阪大学や東京都立大学など他大学の問題の中から、似通った内容や分量の問題を選んで解いておくことも有効である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	選択・記述・論述・描図	自然環境と地理情報	地形図読図 自然災害 集水面積の描図 2つの人口分布図の表現法とその比較	標準
Ⅱ	選択・記述・論述	農林水産業	三大穀物生産地域の地域的特徴 日本における植物工場の立地の特徴 日本の漁業生産量推移のグラフの判別 遠洋漁業の漁獲量が減少した背景 1990年代以降の世界における漁業・養殖業の変化 マングローブ林の植林が進むことによって得られる便益	やや難
Ⅲ	記述・論述	人口・都市	世界の都市人口比率と大都市の分布の類型区分 日本の人口上位100都市における人口分布の変化 春日井市における人口構成の変化	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。